

会報

[財]日本太鼓連盟

NIPPON TAIKO FOUNDATION

発行・編集 1999年4月

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16 財団法人日本太鼓連盟

副会長 塩見 和子 Tel.03-3580-9536 Fax.03-3580-8322

◆日本太鼓のさらなる普及・発展をめざして◆

～平成11年度の事業展開について～

財団法人日本太鼓連盟は、平成9年11月11日設立以来、本年4月で1年5ヶ月を経過し早いもので3度目の事業年度を迎えます。この間、太鼓界の組織の基盤確立に関わる支部制度、会員制度、資格認定制度、大会開催要領等を規程化すると共に各種委員会を設置し、日本太鼓の伝統伝承並びに普及、振興をととして、我が国文化の発展に寄与するため各種事業を積極的に実施してまいりました。

当財団は、常に日本太鼓の普及・発展をめざしていくことを基本理念に会員の皆様の意を体して進めてきており、これからも同様な考えのもとに施策を展開してまいります。今日の厳しい経済事情は、少なからず太鼓界にも影響し、太鼓活動に対する行政支援の後退や演奏依頼件数の減少などになって現れてきております。景気等先行き不透明なこれからの時代にあって太鼓愛好者の輪を広げていくためには、時の流れや社会の変化に対応していくことは勿論、確固たる基本理念のもと、明確な目標を立てて事業を計画、実行し、そして成果を確認してゆくことが太鼓界発展のため、われわれ関係者に課せられた命題であると考えます。

当財団といたしましては、次のような課題と目標を設定し、平成11年度の事業を支部並びに会員の皆様の理解と協力を得て積極的に展開して行く所存です。

I 今後の課題と目標について

3年後の2002年は、太鼓界にとっては躍動の年になりそうです。まず、学校の完全週5日制が実現し、週休2日となり「学校・家庭・地域」のそれぞれの協力体制で子供の受け皿を用意する必要性が生じてきます。すなわち、子供たちの健全な学校外活動のあり方が求められます。

一方、文部省・学習指導要領が改正され、その中で伝

統音楽の重視が打ち出され、中学生音楽では「和楽器の学習」を新たに設け、3年間のうちに1種類以上の和楽器を学ぶように勧めています。

当財団といたしましては、このような背景を考慮し、年次計画に沿って2002年には、47都道府県全てに支部を設立すること、加盟団体数を現在（740団体）の1.5倍に目標を掲げ実現していきたいと考えます。そのためには、支部並びに会員になることのメリットを明確に打ち出すとともに、演奏活動を促すため行政や支部並びに会員の皆様の理解と協力を得て、演奏機会を更に増やしていくことが不可欠であります。特に、演奏技術の向上意欲を刺激するため、地域のいたるところで太鼓演奏会が実施されるよう市区町村と財団が提携をしていくことが望まれます。更に、学校での和楽器導入が図られることに鑑み、太鼓界としては、今から公認指導員の技量の向上と新たに指導員の育成、増員を図っていく必要があります。一方、多くの人達に日本太鼓の実状を知ってもらうため、テレビやその他のマスメディアに対し、機会を捉え積極的にアプローチするなど広報活動を積極的に展開し、太鼓愛好者の開拓に努めていくことも重要であります。

II 平成11年度事業の実施について

1. 日本太鼓助成事業 [日本財団補助事業]

(1) 目的

わが国における太鼓活動の普及・振興を図るため太鼓団体の行う演奏会、講習会、学校指導、障害者指導、国際交流等の事業に対して日本太鼓助成金交付規程に基づき実施する。

(2) 助成方法

当財団の機関誌、インターネット等により全国（外国チームを含む）の太鼓団体から希望を募り、運

営委員会の審査を経て会長が交付を決定する。

(3) 助成金額

原則として1事業当たり20万円を上限とする。

(4) 助成件数 12事業程度とする。

(5) 第1次申請締切日 平成11年9月30日

*詳細は、当財団の「日本太鼓助成金交付規程」を参照して下さい。

2. 日本太鼓全国フェスティバル [日本財団補助事業]

(1) 目的

日本太鼓の普及、振興を図り、併せて技術の向上並びに太鼓団体との交流を目的として、日本各地で活躍している太鼓団体が一同に会して実施する。

(2) 名称 第3回日本太鼓全国フェスティバル

(3) 期 日 平成11年11月28日(日)

(4) 場 所 山梨県立県民文化ホール(甲府市)

(5) 観客数 約2,000名

(6) 出演団体 40団体程度

(各支部代表並びに特別会員など)



●出雲ドームでの第2回日本太鼓全国フェスティバル

3. 日本太鼓コンサート [日本財団補助事業]

(1) 目的

日本太鼓の理解を深めるために、政・官・財界・在日外国高官及びオピニオンリーダーの人達を対象に、日本の伝統文化である日本太鼓のコンサートを実施する。また、コンサートに併せてチャリティ募金を行う。

なお、今年度の共催団体は財団法人エイズ予防財団に決定しました。

(2) 名称 第3回日本太鼓チャリティ・コンサート

(3) 期 日 平成11年5月21日(金)

(4) 場 所 東京・草月ホール

(5) 観客数 約350名

(6) 出演団体 6団体

(今年度から、日本太鼓ジュニアコンクールの優勝

チームが出演することになりました。)

4. 日本太鼓ジュニアコンクール [日本財団補助事業]

(1) 目的

次代を担う子供達の健全育成と日本太鼓の後継者づくりを目的として、各都道府県から選抜された高校生以下で構成する太鼓団体を対象に実施する。

(2) 名称 自治大臣杯

第2回日本太鼓ジュニアコンクール

(3) 期 日 平成12年3月19日(日)(予定)

(4) 場 所 サンアリーナ川北(石川県川北町)
(予定)

(5) 観客数 約2,000名

(6) 出演団体 40団体程度

*ジュニアの輪を広げ、技術の向上を図るため、各支部において予選大会を実施します。

5. 日本太鼓全国障害者大会 [日本財団補助事業]

(1) 目的

日本太鼓を音楽療法の一環として行っている知的、身体障害者チームの大会を実施するとともに、フォーラムを開催する。

(2) 名称 第1回日本太鼓全国障害者大会

(3) 期 日 平成11年7月25日(日)

(4) 場 所 コンベンション・アーツ・グランシップ静岡(静岡市)

(5) 観客数 約1,000名

(6) 出演団体 15団体程度(フォーラム・パネラー5~7名)

*フォーラムにおいては、日本太鼓とその療育について医学的、教育的な見地から検討を行います。

6. 国際交流事業 [日本財団補助事業]

(1) 目的

わが国を代表する伝統音楽の一つとして国際親善、文化交流の一翼を担うことを目的に、日本太鼓団体を海外に派遣し、公演活動を実施する。

(2) 実施内容

○日本人移住100年祭特別公演

ペルー及びボリビアに日本人が移住して100年目を迎え、記念式典を行うこととなった。両国よりこの公式行事に、財団に太鼓チームの派遣要請があり本公演を実施することとした。

期 間 平成11年5月26日~6月7日

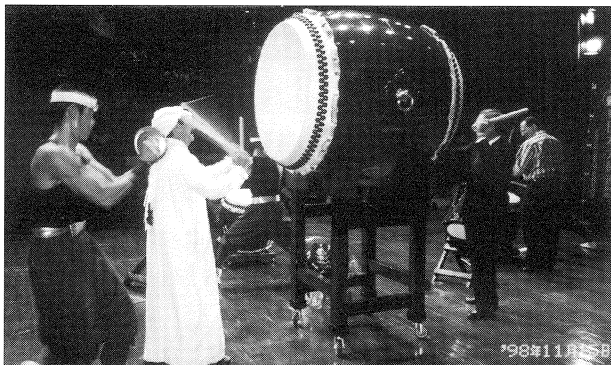
派遣先 南米（ペルー、ボリビア）
派遣団体 御諏訪太鼓保存会（小口大八代表）
石見神代神楽上府社中（岩川年永代表）

○欧州公演

期 間 平成11年10月（予定）

派遣先 欧州（予定）

*10月頃に、国際交流基金から海外公演が依頼されています。



●1998年カタルで公演する富岳太鼓

7. 日本太鼓全国講習会〔日本財団補助事業〕

(1) 目 的

日本太鼓の指導者の育成と技術の向上を目的として実施する。今年度は3回予定している。

(2) 名称、期日、会場、

○第5回日本太鼓全国講習会

平成11年6月12・13日（群馬県・赤城青年の家）

○第6回日本太鼓全国講習会

平成11年11月13・14日

（大分県湯布院町スポーツセンター）

○第7回日本太鼓全国講習会

平成12年2月27・28日静岡県（予定）

(3) 講 師 1回につき6名程度

(4) 受講者 1回につき200名程度

(5) 受講料 1回につき（2日分）

大人（一般）10,000円（会員）9,000円

子供（一般）5,000円（会員）4,500円

*この講習会は、財団ならではの一流の講師を招いて行っており、技術向上を図るための良い機会となります。今後は、地区単位、支部単位による講習会も実施していく予定です。

8. 日本太鼓資格認定事業

前記の講習会に併せて検定試験を行っているもので、日本太鼓の指導者の育成を図るための「公認指導員」

と、太鼓の演奏技術の向上を目的とした「技術認定員」の資格を、規程に基づき認定する。

*前述した文部省・学習指導要領の改正に伴い、小中学校において日本太鼓の導入が予測されることから、太鼓界としても全国的に指導員の育成、増員を図っていく必要があると考えます。

*公認指導員の現在数は192名（内訳は次のとおり）

特別公認指導員 2名 1級公認指導員 18名

2級公認指導員 72名 3級公認指導員 100名

*技術認定員の現在数は615名（内訳は次のとおり）

2級技術認定員 11名 3級技術認定員 31名

4級技術認定員 62名 5級技術認定員 511名

9. 広報事業

これまでテレビ、新聞、雑誌などを通じて広報事業を行ってきたが、各種のマスメディアの活用や機関誌の発行並びにホームページの開設等により、日本太鼓に関する活動を紹介するなど、広範囲に広報活動を展開していく。

(1) マスコミとの連携

当財団及び支部主催の日本太鼓演奏会等の事前告知を中心に、マスコミ各社を通じて日本太鼓の健全な普及を図るため各種広報活動を実施する。

(2) 機関誌の発行

名 称 （財）日本太鼓連盟会報

回 数 年4回（4月・7月・10月・1月）

部 数 各号 1,500部

*会員並びに支部関係者の皆さんから積極的な寄稿を期待しています。

10. 協力事業

国や地方公共団体並びに関係団体が実施する各種催事に協力するとともに、国際交流を目的とする機関が実施する文化交流等のための日本太鼓演奏依頼に対しても積極的に支援する。

*平成10年度は、幅広い分野から12件の協力要請があり、あわせて19の太鼓チームを派遣し、演奏を行いました。今年度もご協力をお願いします。

11. 後援事業

当財団の支部並びに関係団体が日本太鼓の普及、振興を図るために実施する事業に対して、積極的に後援する。平成10年度は、43事業に対して後援を行いました。

た。(参加総数約30,000名、観客者総数は約202,000名)

なお、当財団の後援を依頼する場合は、所定の用紙(当財団指定)により申請をお願いします。



●協力事業：国民文化祭おおいでの太鼓演奏

◆ 第5回運営委員会を開催 ◆

1999年2月10日(水) 13:00から17:00までの間、東京の日本財団ビルで第5回運営委員会が開催された。財団を代表して塩見副会長より挨拶があった後、塩見運営委員長が議長となり審議に移り、各種事業の内容について検討した。

主な決定事項は次の通り。

1. 総務について

① 支部開設申請、入会申込、会費納入について、前回の委員会でも各運営委員に督促を依頼したが一部を除き効果がなく、未提出、未納の支部がある旨を報告した。これに対して、全委員から期限を定め、提出のない場合は、会員としての資格を喪失すべきとの意見が出され、運営委員会の決議事項として文書にて通達することとした。

(3月末日までに入会申込書を除き全支部から開設申請の提出と全会費が納入された。)

② 支部未組織の18県に対しては具体的な支部設立の計画案を作成すべきとの意見が出され、次回の運営委員会で検討することとなった。

③ 入会希望団体を審議し、特別会員として武蔵国府太鼓「響会」(東京)の入会を承認した。また、賛助会員として申請のあった杉浦太鼓店(愛知)については再度状況を調査したうえで委員長に一任することとした。

(注) 3月15日付けで、杉浦太鼓店は承認された。

2. 規程・要領の制定について

日本太鼓大会開催規程案と規程に伴う開催要領案(日本太鼓全国フェスティバル、日本太鼓ジュニアコン

クール、日本太鼓全国障害者大会)を検討した。

*規程については理事会の承認事項となっているため、

5月19日開催の理事会において承認された後、各支部に送付いたします。

3. 平成10年度事業について

(1) 助成金交付事業の事務処理が遅れ、当該団体に督促している旨を報告した。今後、期日までに書類の提出がない場合は、交付しないこととなった。

(2) 島根県出雲市の出雲ドームで実施した第2回日本太鼓全国フェスティバルの実施結果を報告した。

(3) 日本太鼓ジュニアコンクールの名称について参加者が中・高校生が多くなり子供よりジュニアが相応しいとして変更した。また実施要項、出場団体の決定方法、審査委員などを検討し、承認された。

(4) 日本太鼓全国講習会の平成10年度における全3回の実施結果を報告した。

(5) 日本太鼓コンサートの実施結果を報告した。

(6) 日本太鼓実態調査事業の実施状況を報告した。

(7) 国際交流事業については、国際交流基金の主催事業として実施した旨の報告をした。

(8) 公認指導員の推薦者を技術委員会で検討した結果が報告され承認された。なお、3月31日付の認定員名簿を作成することとなった。

4. 平成11年度事業を事務局より説明し、詳細は次回検討することとした。

5. その他について

小野常務理事より、2002年に改訂される小・中学校学習指導要領について資料を基に説明があり、今後、太鼓界としても学校教育に力を注いでいくべきとの意見の一致をみた。

日本財団平成11年度交付金決定

当財団が、日本財団に対して申請していた平成11年度の交付額が不況にもかかわらず昨年度の活動が認められ次のとおり決定しました。

交付金総額 92,100,000円

補助金交付額 46,400,000円(事業費)

助成金交付額 45,700,000円(管理費・人件費等)

◆ 第1回自治大臣杯日本太鼓 ジュニアコンクール開催 ◆

ー平均年齢7.5才の共栄太鼓風雅（石川）が初代王座にー

（財）日本太鼓連盟主催、（社）石川県太鼓連盟主管による第1回自治大臣杯日本太鼓ジュニアコンクールは、日本財団の補助事業として去る3月21日、石川県川北町のサンアリーナ川北で行われました。全国29都道府県から選ばれた34団体が出場して行われ、平均年齢7.5才の最年少チームの共栄太鼓風雅（石川県小松市）が初代王座に輝きました。

開会式は、舞台上に地元のボーイスカウトを先頭に全チームが整然と並び始めました。国歌斉唱に続き（財）日本太鼓連盟の小野常務が吉野会長のメッセージを代読し、（社）石川県太鼓連盟の飛田会長から激励の挨拶がありました。続いて来賓を代表し、谷本石川県知事、西田川北町長よりご祝辞を頂きました。この後、司会者から7名の審査委員が紹介され、「初っ切り太鼓」が当財団副会長であり審査委員長でもある小口大八氏により行われました。

全国から出場者380名が集まり、会場は朝からの雨にもかかわらず、初めてのジュニアコンクールを一目見ようと3,000名以上の観客で席が埋まりました。出場団体はコンクール審査要領に基づき5分間に課題曲と自由曲を演奏しました。太鼓奏者の林英哲氏ら7名の審査委員が礼節・衣装、構え・打法、演奏技術、音楽表現、チームワークの5項目を審査し、第1位から第5位までと特別賞が別表のとおり決定しました。

このコンクールは、技（わざ）を競うだけではなく、感謝の心や礼節など人間形成を図る教育の場として考えております。出場する者、運営する者などの立場の違いをお互いが理解し、一体となって有意義なコンクールにしていきたいと思います。



●開会式

審査委員講評

審査委員代表 林 英哲

技術はジュニアと思えない程レベルが高かったと驚いています。このコンクールを良い機会として一段と成長されることを期待しております。

これからの具体的な課題としては、間を大切にし、更に精神的な昂揚をはかる上でしっかりした声を出すこと。演奏中のみだけでなく、舞台に出る時から舞台袖に戻ってくるまで常にお客様の視線を意識すること。それぞれの地域に伝わる奏法を生かすようにされるとさらに良くなると思います。

審査委員（敬称略）

小口 大八（審査委員長・財団副会長）

池田 庄作（財団副会長）

中西 智子（三重大大学教授）

林 英哲（太鼓奏者）

古屋 邦夫（財団技術委員長）

細谷 一郎（現代音楽演奏家）

水野 修孝（千葉大学教授）

（委員長以外は五十音順）

栄えある入賞チーム

優勝 共栄太鼓風雅（石川県小松市）

第2位 山口太鼓流北海若衆太鼓（北海道）

第3位 手取亢龍若鮎組（石川県川北町）

第4位 下館若囃太鼓会（茨城県）

第5位 秩父屋台囃子保存会（埼玉県）

川北町長賞（伝統の太鼓が印象的）

大治太鼓保存会（愛知県）

北國新聞社長賞（演奏技術が優秀）

芳龍子ども太鼓（福井県）

全日空賞（躍動感が印象的）

チビッコ丸谷太鼓保存会（石川県）

テレビ金沢賞（衣装と気迫が印象的）

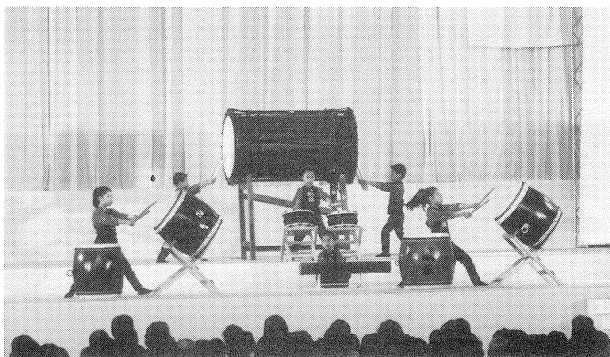
信州上田真田陣太鼓（長野県）

（社）石川県太鼓連盟会長賞（元気な笑顔が印象的）

不知火竜燈太鼓子供隊（熊本県）

優勝チームの横顔

共栄太鼓 風雅（石川県）代表：大久保英之祐



石川県小松市で週3日大人にまじって厳しい練習が続いています。今回は、その成果が実ったもので将来が楽しみなチームです。大会の出場者は次の6名でした。

山口真由佳(10才)、竹原駿祐(8才)、吉田千尋(8才)

下田祐輔(7才)、稲垣亜美(7才)、大久保未結希(6才)

コンクールに優勝して

山口真由佳(10才)

私のお兄ちゃんも、お姉ちゃんも子どものころ太鼓をしていました。お父さんも太鼓をしています。だから私も太鼓をしようと思いました。今の風雅に入ってからまだ5ヶ月しかたっていません。初めてならにいった時、いままでならっていた太鼓とちがうたたき方やふりがあって「できるかなー」と思いました。でもならい始めると、とてもたのしくて、友だちもたくさんできました。全国大会でうようしうするために、いっしょうけんめいみんなで練習しました。先生はきびしくて、練習のつらい時もありました。うまくできなかった時もありました。大会の日いろいろな県からきたお兄さんやお姉さんがたくさんいました。みんなとても、じょうずで、すごいと思いました。わたしたちもいつもれんしゅうしている時みたいになんばって太鼓をうちました。大会が終って風雅のうようしうと言われた時びっくりしました。とってもうれしかったです。先生は「みんながうようしうしたんだよ」といってくれました。今、又ちがう曲をれんしゅうしています。これからも大好きな太鼓をずっとつづけたいです。

(原文のまま掲載)

コンクールに参加して

信州上田真田陣太鼓 春原夕紀(18才)

長野県の代表として出場、そして特別賞「テレビ金沢賞」をいただきました。昨年9月20日岡谷市市民会館を会場として実施された長野県地区予選大会で優勝し、全国大会への出場権をいただいた私たちは、出場メンバー6名で数ヶ月の練習を重ねた後、「全国制覇」を目標に石川県に向いました。前日リハーサルの関係

で午前10時に会場入りした私たちは、一番に会場の広さ、ステージの大きさそして大会の規模の大きさを再認識させられました。私たちを皮切りに、各県代表が続々と熱の入ったリハーサルを繰り返して行きました。その日は、全国的に天候がぐずれ各地で突然の雪にみまわれ、交通渋滞のためリハーサル時間に間に合わず、大会当日の朝に現地入りしたチームもあったようです。全国から34チーム、全国で名高いチームが集まり記念すべき「第1回」である大会を盛り上げました。出番は16番目、第二部でした。課題曲1分間、自由曲4分間と予選と全く同じ時間配分で競い合うこの大会で、私は自分の力を信じ仲間を信じ、「真田幸村」になりきって5分間を戦いました。他県の代表チームの演奏も素晴らしく、各チームの出来栄は「ジュニア」を超えていると感じました。全ての演奏が終わり表彰式となりました。1位から5位、そして特別賞が発表され、私たちは「気迫」「身のこなし」「出立ち」が高く評価され特別賞「テレビ金沢賞」をいただきました。1位から5位までに輝いたチームは、アップテンポのリズムを刻んだチームでも、複式複打を行ったチームでもなく、自分自身をしっかりと見つめ、自分達が生まれ育った地域の文化やまつりを自分達らしく表現したチームでした。

今回、全国大会の舞台で学んだものは、まさに各地域を思い大切にすること。小手先の技術よりも先に習得しなければならないものはハートであると感じました。

競わなくてはならない相手は目の前で完成度の高い曲を演奏するチームではなく、きのうまでの自分自身。そしてめざさなければならないものは、すばらしいリズムを打つ他のチームでなく、私たちが伝承しなければならない私たちの地域の伝統文化芸能であることを認識しました。

地元上田に根づき、地元英雄説を太鼓に表現するチームに属している私としては、今まで以上に「真田家」のことを学びそれを私が打つ太鼓の響きで表現したいと思っています。

最後になりましたが、私たちの演奏を審査して下さいました審査委員の先生、演奏しやすいように何かとお心をかけて下さった石川県の皆様に感謝します。

ありがとうございました。

大会を終えて

石川県太鼓連盟事務局長 得能力知

大会前日の20日には、仮設舞台などの会場設営や照明・音響の準備も整い、出演者代表・スタッフなどの関係者が出席して大会の成功と安全を祈るため祈願祭を執り行いました。その後、各チームが続々と会場入りし、舞台や太鼓の確認、会場の下見そしてリハーサルを夜遅くまで行いました。一夜明けて21日、いよいよ大会当日の朝を迎えました。あいにくの雨と季節外れの寒さのなかで作業が開始されました。太鼓の搬入、舞台転換、団体管理、受付、案内、車両整理、控

室管理等々多くの太鼓仲間と町の関係者に協力いただきました。特に今回は食事を自炊にしたため調理からごみ処理まで加わりました。それでも、出場チームの熱演と寒い会場の中を審査の発表まで帰らずに心待ちにしてくれた観客の皆さんの熱意がとてもうれしく感激しました。初の大会のため、宿泊、送迎、案内、舞台設営等不手際があったかと思いますが、皆様のご協力で無事終了できました。本当にありがとうございました。

大会出場チーム

34団体（全国29都道府県代表）

浜脇子供太鼓（大分）、共栄太鼓風雅（石川）、相州海老名東柏太鼓（神奈川）、日吉小学校和太鼓クラブ（岐阜）、善通寺龍神子供太鼓真魚（香川）、掛合太鼓ジュニア（島根）、大場潟乃太鼓若鮎会（石川）、大和の響き京・無宇（京都）、鹿町やまと太鼓の会（長崎）、倉敷わらべ太鼓（岡山）、越部鼓（兵庫）、上総の國房州太鼓（千葉）、大曲太鼓道場 Jr（秋田）、霧島九面太鼓保存会女子部（鹿児島）、市立原町第一小学校九曜太鼓部（福島）、信州上田真田陣太鼓（長野）、下館若囃太鼓会（茨城）、山口太鼓流北海若衆太鼓（北海道）、安居大神楽太鼓（富山）、新潟万代太鼓江南青龍会（新潟）、富岳わんぱく太鼓（静岡）、こどもの城和太鼓グループ（東京）、米山丸山太鼓（宮城）、大治太鼓保存会（愛知）、小城太鼓小天狗（佐賀）、古関観音太鼓同好会（山梨）、手取亢龍若鮎組（石川）、るんぴに太鼓（大阪）、チビッコ九谷太鼓保存会（石川）、不知火竜燈太鼓子供隊（熊本）、秩父屋台囃子保存会（埼玉）、福留じょんがら太鼓（石川）、芳龍子ども太鼓（福井）、宮崎県立五ヶ瀬中学校・高等学校（宮崎）、（出場順）

***大会の運営にご協力いただきました多くの皆様に感謝申し上げます。**

特別協力:北國新聞社

後援:自治省、文化庁、石川県、石川県教育委員会、川北町、川北町教育委員会、(財)日本音楽財団、NHK、テレビ金沢

協賛:全日空金沢支店、川北町商工会、太鼓の里浅野

特別出演:川北町保育所、つばき幼稚園、御陣乗太鼓保存会（以上石川）橘太鼓響座（宮崎）

協力:金沢高等学校吹奏楽部、ボーイスカウト川北第1団・2団

<テレビ放映・新聞記事>

大会の様子が当日夕方のNHKとテレビ金沢で、ニュースとして紹介されました。また、NHKでは前々日に特集番組を組み地元チームの練習風景等が放映されました。

なお、北國新聞と北陸中日新聞などに大会の様様や審査結果が掲載されました。特に北國新聞には、このほか事前に2頁の34チームの紹介記事をはじめ、数多くのコンクール記事が掲載されました。

◆ 第4回日本太鼓全国講習会

京都で開催 ◆



● 5級講座の記念写真

第4回日本太鼓全国講習会が2月27日(土)・28日(日)の両日、京都・井手町の自然休養村管理センターをメイン会場に、山崎勤労者福祉会館、山吹ふれあいセンター、泉ヶ丘中学校体育館にそれぞれ分かれて行われました。

今回は、昨年6月に支部として当財団に加盟して間もない京都府太鼓連盟の主管により行われたもので、富治林会長をはじめとする会員の皆さんの熱意と努力を高く評価するものであります。講習会には京都府を中心に岐阜、静岡、千葉、長野、石川、兵庫、福島、三重、大阪、宮崎、大分、鹿児島各地から110名の受講者が参加しました。

開講式は、高木克美、田中俊子の女性お二人の司会により進められ、はじめに主催者を代表して塩見副会長から「本講習会においては、太鼓の技術を体得するだけでなく、礼節や動きなど物事に取り組む基本的な姿勢を身につけてほしい。」との挨拶の後、京都府太鼓連盟富治林会長が主管する側から挨拶がありました。続いて、地元井手町原田助役より歓迎の言葉が述べられ、その後講師の紹介が行われました。引き続き、京都府太鼓連盟から推薦された公認指導員7名（2級2名、3級5名）が先の運営委員会において認定が承認されたことにより、授与式が行われ受講者が見守るなか塩見副会長から一人ひとりに認定証が手渡されました。最後は恒例の講師による模範演奏が行われ、熟練されたバチさばきに受講者は身を乗り出し聞き入っていました。午後からは、4ヶ所に分かれて5講座の講師による厳しい指導が開始されました。

翌2日目は、朝の集いから始まり、講座も順調に進み最後に、3専門講座で技術を習得したそれぞれの受講生による成果発表が行われ、2日間の講習による上達ぶりを披露しました。

閉講式は、開講式と同じ体育館で行われ、小野常務理事と富治林京都府会長の挨拶の後、渡辺洋一氏（東京・天邪鬼）に対し1級公認指導員の認定証が授与されました。

第4回日本太鼓全国講習会の内容は次のとおりです。

***専門講座**

ゆふいん源流太鼓講座（講師・長谷川義氏）複式複打
海東流神楽太鼓講座（講師・高坂雅之氏）単式複打
大太鼓講座（講師・山内強嗣氏）単式単打

***基本講座**

4級基本講座（講師・松枝明美氏）

5級基本講座（講師・古屋邦夫氏）

午後は希望者による技術認定員試験（学科・実技）が行われ、結果は次のとおりです。

検定審査員（1級公認指導員）

古屋邦夫氏、松枝明美氏、渡辺洋一氏、

1級検定 3名受検 2名合格

（いずれも初回実技合格）

2級検定 8名受検 7名合格

（4名は2級技術認定、3名は初回合格）

4級検定 6名受検 6名合格

5級検定 26名受検 26名合格

第5回日本太鼓全国講習会案内

期日：6月12日（土）・13日（日）

会場：国立赤城青年の家（群馬県）

予定講座（講師全員が1級公認指導員）

<専門講座>

秩父屋台囃子講座 高橋利雄氏（埼玉県）

助六太鼓講座 小林正道氏（東京都）

ゆふいん源流太鼓講座 長谷川義氏（大分県）

<基本講座>

3級基本講座 渡辺洋一氏（東京都）

4級基本講座 松枝明美氏（長野県）

5級基本講座 古屋邦夫氏（長野県）

*受講希望者は早めにお申し込み下さい。

日本太鼓資格認定者名簿を発行

平成11年3月末日における公認指導員並びに技術認定員の名簿を発行いたしました。各支部並びに公認指導員の皆さんにはお送りします。名簿を希望される方は、実費300円（送料込）でおわけしますので事務局へご連絡下さい。

事務局だより

日本太鼓実態調査報告書完成

3,389自治体(全国市区町村総数)に対し、太鼓と地域(市区町村)との関わりを知るアンケート調査を当財団で業界として初めて実施したところ、45%を超える回収がありました。この調査を基に日本太鼓を取り巻く現状を分析し、報告書として取りまとめました。各支部に送付いたしますので、会員数の拡大等、今後の日本太鼓の普及、発展に役立てていただきたいと思います。

年度会費納入について

平成10年度の会費は再三の要請の結果、年度末によりやく全会員分が納入されました。今年度の会費は、「会員組織規程」第21条により5月末日が期限です。支部の会員は支部事務局に、特別会員並びに賛助会員は財団に速やかに納入するようお願いします。

会費の振込先

郵便振込み

口座番号 00100-6-419013

口座名 財団法人日本太鼓連盟

各地のたより

4月10日（土）11日（日） 感動成田劇場第11幕

（成田山新勝寺及び参道、主催：感動成田劇場実行委員会）

5月8日（土）'99マリンスポーツ in 諏訪湖（出演：御諏訪太鼓）（諏訪湖畔公園、主催：財団法人マリンスポーツ財団）

5月16日（日）平成11年度日本太鼓フェスティバル（秩父ミューズパーク野外ステージ、主催：同実行委員会）

7月20日（祝）第13回秋田県太鼓フェスティバル

（増田町立増田中学校体育館、主催：秋田県太鼓連盟）

7月31日（土）大響祭'99

（あきた北空港野外ステージ、主催：大響祭実行委員会）

10月23日（土）橋本光司・鼓の道35年和太鼓会10周年特別記念公演（北海道厚生年金会館、主催：同実行委員会）